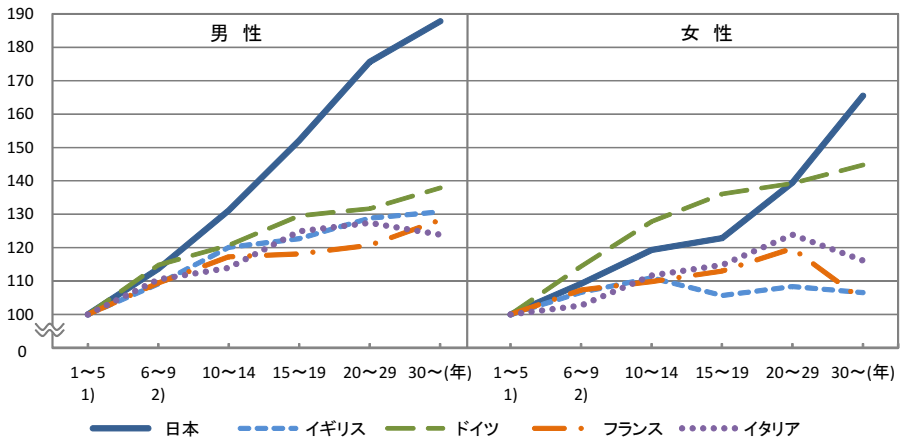


5-4 勤続年数別賃金格差（製造業、2002年）

（勤続年数1～5年＝100）



▶ グラフの具体的数値及び資料出所については、「第5-13表 勤続年数別賃金格差(製造業、2002年)」(p.183)を参照。

(注) 1) 日本は0～4年。

2) 日本は5～9年。

上のグラフは日本、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアについて、勤続年数1～5年(日本については0～4年)の賃金を100としたときの勤続年数別賃金指数(格差)を示したものである。

まず男性についてみると、日本については勤続年数が長くなるにつれ、勤続年数別賃金指数が上昇し、勤続年数20～29年までその成長スピードも増す。特に勤続年数30年以上では勤続年数0～4年の1.8倍超に達する。その他の国々については、ドイツでは勤続30年以上で約1.4倍、イギリス、フランスでは勤続年数30年以上で約1.3倍、イタリアでは勤続年数20～29年で約1.3倍となる。一方、女性の場合は、男性に比べて勤続年数間の賃金格差は概して小さくなっている(ドイツは女性の方が男性より大きくなっている)。